見事完遂！

秋田　太平山～馬場目岳

栗原他

【日時】　2012年12月29日～2013年1月1日
【メンバー】　栗原Ｌ　五十嵐　野口

12/29（土）晴れ　栗原記

秋田駅で高速バスを降り、タクシーで太平山スキー場に乗りつける。が、下調べが悪く、スキー場のリフトはスキー客以外を乗せてくれなかった。仕方なく、スキー場を外れた当たり障りのなさそうな尾根から登りだす。最初からスノーシューでのラッセルとなる。天気は上々で、明日からの悪天予報に、せめてものプレゼントだ。しばらくラッセルを繰り返し、尾根に上がると、突如トレースが現れた。どうやらその先のクアドームから登った人たちのトレースのようだ。ここからはつぼ足でもＯＫになり、速度があがる。

途中、下りてくる人と多数すれ違い、太平山が地元で親しまれているのがうかがえる。そのうちの一人と会話し、東京の山岳会と言うと、「まさかトマ…?」と言われ、びっくり。田辺さんや手嶋さんの知り合いだとのこと、世間は狭いものだ。すれ違う人たちからこの先の情報をいろいろ得ながら、まずは前岳まで。皆ここで引き返しかと思いきや、その先にもトレースが伸びていた。どうやら中岳まで行っている人がいるよう。少し頼りなくなったトレースを伝いながら、中岳まで。中岳山頂には小さな祠があった。流石にトレースはここまで、喧騒（？）の山頂を後にし、ラッセルに再度突入する。本当は天気のいいうちに少しでも進みたかったが、夜行バスの疲れで、当初の予定の辺りで幕とする。初日をつつがなく終えたことで少し安堵したが、問題は明日からの悪天、どうか越えられますようにと心のうちで祈りつつ眠りに着いた。

12/30(日)雪のち雨　野口記
山に入って２日目、いよいよ核心の太平山を　目指す。
天気が良くないとの予報だが、出発時には雪は降っていないので、早めに太平山を抜けてしまいたい。

稜線沿いに、鶴ヶ岳、剣岳、宝蔵岳とピークを越えていく途中、雪が降り始める。幸い風もなく、気温も高いので寒くない。延々とラッセルしながら登り下りを繰り返す。2 週連続でのラッセル訓練が効いたのか、きついけどもなんとか頑張れる。宝蔵岳を下っていくと、太平山への最終アタックの弟子還りに辿り着く。今までは樹林帯だったが、ここだけ木がない。夏道には鎖がつけられているのがみえるがその横の斜面を登る。なかなか急な斜面に風雪で苦労したが、登り切るとそこには太平山神社が待っていた。
山頂は風が強く寒い。神社の陰で風をしのぎ、休憩をとりながら登頂の喜びに浸るもとにかく寒いので樹林帯を目指し神社を後にする。
ここから旭岳を越え、旭岳と 1031 ピークの間の鞍部で幕営。途中、雪がみぞれに変わり、

いつのまにか雨に。雪山で雨というのは初体験だったがひどいものである。全身びしょ濡れのままテントに入ると、当然
テントの中もびしょ濡れ。濡れたままシュラフに入るとシュラフもびしょ濡れで保温効果が激減。寒くてよく眠れない夜を過ごすこととなった。
着ているものが濡れている時は全部脱いでからシュラフに入るべきだということを身をもって学んだ日となりました。

12/31（月）風雪　五十嵐記
　びしょぬれで寝についた僕らは、3 人ともあまり眠れなかったようだ。目覚ましの音を待っていたように、寒い寒いと言いながら体を起こした。風の音は聞こえるが、テントにはあたらない。ここにいるぶんには安全だ。予報は荒天。翌日も、その翌日も悪いみたいだ。濡れたウェアで荒れた山のなかを歩きたくないなあ。エスケープルートに逃げ込む選択肢もあるよなあ。そんなことを考えながら朝食を終える。

　手袋も靴下も乾いたものに替えて、ゴーグルも装着したフル装備でテントの外に飛び出す。世界は真っ白だ。風はそこそこ。視界は 30m ほどか。行動不能という悪天ではない。こ

まかいアップダウンをひたすら繰り返す。笹森の先、エスケープへの分岐で栗原リーダーが待っている。
「ここを過ぎたら進むしかないけど、行ける？」
行く気まんまんだ。野口くんのほうを見れば、彼も行く気まんまん。そうか。なるほど。
「望むところです」
白い世界をふらふらと、先を見え隠れする二人の姿をたよりに、ときに足を踏み抜きながら、枝にひっかかりながら進んでいけば、もう時間の感覚などなく、あとふたつ、いやひとつだったかな、越えるべきピークの数もあやふやになりながら登っていると、幻覚のように三角屋根の山小屋が現れた。

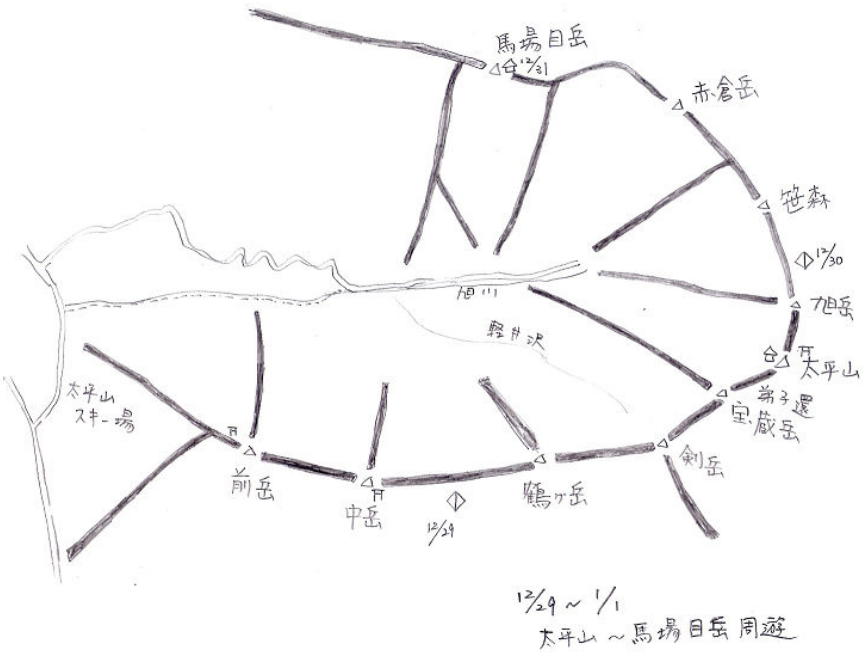
馬場目岳避難小屋。三角屋根にはたしかにそう書かれた看板がかかっている。入口を掘り起こしてドアをあける。整理整頓された三和土に清潔なトイレ。
「ここに泊まりましょう」
リーダー！　話がわかるじゃないですか！
思いがけず現れた山小屋は快適だったが、濡れたシュラフが乾くわけでもなく、やはり眠れぬ夜を過ごしたのでした。

1/1　風雪のち曇り　栗原記
今日のうちに何としても里に下りるぞ、との決意の元、風雪の中を歩きだす。前日の夕方に酒を全て飲み干してしまった者たちの決意は固い。順調にp855までたどり、そこからコンパスを定めて下りだす。途中少々急斜面になったので、スノーシューを外す。と、潜ること潜ること。途端に進みが遅くなる。こんな急斜面だっけ、本当にこの尾根で良かったんだっけ、と疑心暗鬼に駆られながらもつぼ足で下り、やっぱりこの尾根で正しかったね、と思う頃、林業の赤布が出てきた。つい赤布につられて左の尾根に下ると、当初予定よりもだいぶ手前の林道に下りてしまった。あとは仁別国民の森までスノーシューでひたすら軽いラッセル。森林博物館を越えると、道が二つに分かれる。林道を行くか、歩道を行くか。そこまでの林道ラッセルで少々飽きがきていた我々は、満場一致で歩道に決定する。が、五十嵐さんは林道までタクシー出迎えの夢を捨てきれないようで、少々林道に未練を残していた。

歩道は、サイクリング道になっていたようで、思ったよりもずっと道が広くて歩きやすい。が、途中何箇所か崩れて通れなくなっており、少々高巻きや木の潜り抜けを強い

られた。それでも林道よりはだいぶ時間的に早く戻って来れ、たどり着いたクアドームで温泉＆第1回目の打ち上げをした。バスで秋田駅に出てからは、夜行の時間まで第2回目の打ち上げと相成り、充実した山行の締めくくりとしたのだった。

【行程】12/29　太平山スキー場脇（10:15）～スキー場トップ（10:50）～登山道入り口（11:30）～前岳（13:30）～中岳（14:30）～天場ｃ１（15:30）
12/30　ｃ１(7:00)～剣岳（9:30)～太平山（11:30)～c2（13:30）
12/31　ｃ２(7:30)～馬場目岳避難小屋ｃ３（12:25）
1/1　ｃ３（7:30）～車道（13:40）～クアドーム(14:00)

【地図】太平山

【概念図】